

令和6年度第2回吹田市立障害者支援交流センター 指定管理者候補者選定委員会

- 1 開催日時
令和6年（2024年）10月18日（金）午後2時～4時
- 2 開催場所
吹田市立障害者支援交流センター（あいほうぐ吹田） ボランティア室
- 3 出席委員
福本倫之委員長、相馬孝副委員長、須郷紳弘委員、井上寧委員、清水美子委員
- 4 欠席委員
なし
- 5 次第
 - （1）第三者モニタリング評価
 - ア 市の評価に対する確認
 - イ 各委員の評価
 - （2） 答申

- 6 議事の概要
 - （1） 第三者モニタリング評価
 - ア 市の評価に対する確認

- ・市の評価について説明
- ・評価項目「3 サービス提供の継続性及び安定性」について専門家の委員による講評

【委員】

あいほうぐ吹田について、資金収支内訳書の事業活動収入と事業活動支出を比べると支出より収入が上回っており、その支出と収入の差額も問題ない範囲だと思う。

施設を統括しているさつき福祉会の法人単位貸借対照表において、支払能力、設備投資の妥当性、資本構成の安定の3つの指標に基づいて見たが、基本特に問題がなかったと講評する。施設も黒字で法人全体も安定的と確認している。

- イ 各委員の評価
（指定管理者のヒアリング）

【委員】

苦情受付担当者名、苦情受付責任者名を施設内に掲示しないといけないと思うが、見当たらなかった。

【指定管理者】

入口ロビーに設置している重要事項説明書の記述の中に苦情対応の記載があるが、今後は掲示す

る。

【委員】

水道光熱費や人件費が高騰する中、短期入所の医療的ケア者の受入れが始まり、やりくりが大変だと思う。施設長の考えを聞きたい。

【指定管理者】

医療的ケア者を受け入れる中で加算が付き、短期入所の報酬は少し上がっていると思う。今後も新規受入者の加算は取得し、指定管理料以外の報酬も取得していきたい。

【委員】

利用者が減っていると聞いたが、どのように背景を読み取り、今後どうしようと考えているか。

【指定管理者】

家族の高齢化等に伴い施設入所を選択するというケースが多い。新規利用者の獲得のために、見学会やパンフレットの配布等を行ってきた結果、数名の新規利用につながった。今後も積極的なアプローチが必要だと考える。

【委員】

在宅の方々にアプローチをする動きはあるか。訪問看護など外部と結びついていかないと難しいと思うが、どのように考えているか。

【指定管理者】

特に医療的ケア者や重度障がい者が利用する事業所との連携は大切だと思う。特に学齢期の方々との結びつきが大事になると思う。

【委員】

医療的ケアを進める上で、医療とのタイアップが大切になってくると思う。医療機関などとの結びつきは今後どのように考えているか。

【指定管理者】

利用者個々に阪大や市民病院などに主治医がおり、施設の看護師が必要に応じて通院同行などを行っている。ショートステイについても重度の障がい者の方が多く、胃ろうや、気管切開など呼吸器管理の方々については、私たちのような事業所のできる範囲は1泊2日で、家族がレスパイトできる2泊3日は難しいと思う。

腹膜透析のある利用者については断らざるを得ない状況。腹膜透析の事業所を招き、看護師と学習会をしたが不安があり、一人希望されているが当事業所では対応できない。私たちが持っているボーダーのところだと認識している。

【委員】

福祉施設でありながら医療的なことを行い、その上でショートステイを受け入れている。新たな課題をクリアされることを今後も期待する。

【委員】

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響等で利用者数が減ったままというのは、全ての業種で起こっている。集客も大事だが、引き続き今行っている高度な仕事を丁寧に進めていくことも大切だと思う。

【委員】

新規利用者の受入れについて、支援学校に通う早い段階からアプローチすることで関係ができる。直接利用に結びつかなくても、将来的なよいアドバイスができるとういと思う。

【委員】

4億円の収入の内2億円が吹田市からの指定管理料で、支出は4億円でほぼ同額であるが、指定管理者制度では、建物等の賃料が発生しないので大きなアドバンテージになっている。その部分を利用者に還元していることを指定管理者は考えてほしい。

(評価シートに記入。記入後評価について各委員より講評)

【委員】

新規利用者を待っているだけではなく、こちらから出向いて説明するという流れが主流になっている。支援学校にも出向いて子供のときから知ってもらい、将来の選択肢の中に入れてもらう。施設の特徴や強み等を伝えることを市の指定管理者として行ってほしい。

【委員】

医療的ケア者の受入れについては、利用者が増えていない課題はあるが、施設として質の向上に力を入れており、新たに加算を取るなどの努力もされ高く評価した。重度障がい者の在宅ケアの全体的な仕組みや背景があり、ただ単にこの施設の努力だけで利用者が増えるものでもないと考ええる。施設内のサービスは十分に努力していると思うが、外とのつながりが弱いと思う。所属法人以外ともつながることにより、今後の在宅ケアの検討ができれば、利用者も増えると考え期待している。

【委員】

あまり手を広げず法人の体力内で努力していただきたい。特に加算の部分については、制度改正で当然のように基本報酬に含められ、無くなることもよくあるので注意が必要である。情報発信について、SNSは誹謗中傷も多いので利用する場合は注意が必要である。

【委員】

物価、人件費、光熱費が高騰しているので、吹田市には今後配慮をお願いしたい。

【委員長】

パンフレット配布等の取組、利用者の声をアンケートで吸い上げ、支援などに活かしていく体制、加算取得についても積極的に取り組んでいる。今後も世の中の状況に応じて引き続き適切に運営を進めてほしい。

(2) 答申

【委員長】

本選定委員会の評価の結果とし「公共施設として、平等かつ公平な運営を適正に実施されていることが確認できた。」を答申としたい。

【委員】

(異議なし)